

* 幸せのじゃ〜ん *



厳しい基準をクリアしたブランド「江刺りんご」は、高い糖度とバランスの良い酸味が特徴

読む人の幸せを心に願って作る

喜びの タネまき 新聞

No.568

江刺甚句まつり〈岩手県奥州市〉

毎年5月に開催される、火防祭を起源とする江刺甚句まつり。現在では、3,000人を超える踊り手が舞う庄巻の「甚句踊り」や、郷土芸能「江刺鹿踊」の全団体が一堂に会する「百鹿大群舞」など、華やかな参加型の祭りとして盛り上がりを見せています。

〈耐えることも大切〉

先日、テレビ局の取材で数日間撮影チームと時間を共にしました。朝早くから夜遅くまで撮影したのですが、放送は十分ほどで、多くの時間をかけて撮影することや、長時間にわたるスタッフの緊張感に驚きました。

撮影チームの一人にカメラの助手を務める若い女性スタッフがおり、私には気付かない僅かなミスに幾度と上司から注意を受けていました。私はその姿を目の当たりにし、プロの厳しさを感じました。撮影の合間に助手スタッフの方に「大変ですね」と声を掛けると「いえ大丈夫です」と瞳を輝かせ元気な返事が返ってきました。

その姿に、ふと自分の高校時代のクラブ活動を思い出しました。当時、大会で日本一の目標を掲げ、日々厳しい練習を積み重ねましたが、辞めずに過ごせたのは、目標があったからだと思っています。クラブ活動と仕事とは比較できませんが、目標を持ち諦めず続けることは人間成長につながるのではないのでしょうか。思い通りにいかない。何をしても叱られる。しかし、耐えて一生懸命努力し続けることによって少しずつ目標に近づき、自分の描いた目標を達成することができるのだと思います。

今回、取材を通じて映像スタッフの一生懸命な姿を見て、「耐えること」の大切さと、自分なりの「目標を持つこと」の大切さを改めて学びました。

株式会社ダスキン社長

山村輝治



日本は
ひろいな
おいしいな

愛知県西尾市一色町 佐久島 アートが 溶け込む島



作:木村崇人
風で揺れる「カモメの駐車場」は風を見るアート。動く時に出る摩擦音がカモメの鳴き声にも聞こえる



作:南川祐輝

島で一番人気の作品「おひるねハウス」。それぞれの部屋を通り抜ける潮風と波音を体験するアート

印象的な黒壁の家並みから「三河湾の黒真珠」と称される「佐久島」。多くのメディアに取り上げられ、人口たった250人の島に、年間10万人が押し寄せる人気ぶりです。しかし、そうなるまでには厳しい紆余曲折がありました。

日本がバブル景気に沸いた頃、間近にある「日間賀島」のリゾー

ト開発が進み、佐久島もその波に乗る予定だったものの、バブルの崩壊で、その話は頓挫。そのおかげで島には原風景が残りました。高齢化で島が元気を失いつつあった2008年、国土交通省が奨励した「アートによる島おこし」という計画に手を上げたのが一色町でした。「アート？」島民の多くがピンとこなかったと言います。そんな中、「島を美しくつくる会」を立ち上げ、「やろう！」と声を上げたのが鈴木喜代司さんでした。

名のあるアーティストたちが島へやってきました。島民も期待を胸に、全国からのお客様をおもてなしし、イベントは大盛況。しかし、イベントが終わるとお客様はすっかり居なくなってしまうました。何度か同じことを繰り返すうち、「お客様はアートを見に来るだけで、島に興味を持ってはくれない」と悟った島民たちは、活動に背を向けるようになりま

「何とか島の活性化に結びつきたい」。鈴木さんは悩んだ末に、大きな転換を決意します。「アーティスト本位のアートではなく、島の自然や文化を取り入れたものにして、それなら島をアピールできるし、島民も参加できる」。鈴木さんは町長やプロデューサーを粘り強く説得。その思いを叶えます。まず、手掛けたのは、奉納太鼓として代々受け継がれてきた「佐久島太鼓」と、さまざまな楽器の



年に一度、島の内外からボランティアを募り、外壁の塗り替えをする黒壁集落。参加者は150名を超える

鈴木喜代司さん



「幸せな風景」を紹介してくれたみなさん

「島を美しくつくる会」メンバー

島民約250人全員が会員のこの会では、漁師、人里、いにしえ、美食の4つを柱に、それぞれが得意分野で島の活性化に力を注いでいる。

佐久島公式ホームページ
<http://sakushima.com/>

愛知県西尾市一色町 佐久島 幸せな食べ物 × 幸せな風景

子どもたちがアーティストと一緒に作っている「佐久島のお庭」。季節ごとにさまざまな花が咲く



作:松岡徹

「海神(かいじん)さま」は釣りの神様。頭に魚をのせている 作:松岡徹

セツシヨンイベント。やる気を失っていた長老たちが、大喜びで若者たちと一緒に太鼓を叩きました。次は、世界的なアーティストと島の子どもたちのセツシヨンで作品を作り上げる活動も。さらに、島の活性化に必要な作業に島外ボランティアを募集。島のために一役買うことで、参加者は島に愛着が湧き、我が島のようにSNSに書き綴ってくれます。「10年近くかかって、やっとここまで来ました。大切なのは、やり続けることだと思います」。島は、鈴木さんたちの地道な努力をよそに、今日ものんびりと懐かしい時間を湛えています。

かしや餅の作り方

「かしや餅」とは佐久島流のかしわ餅。小豆や米が多くは穫れないこの島では、餡をそら豆、皮を小麦粉で作リ、サルトリイバラの葉で包みます。このお餅、端午の節句ではなく、7月初旬の農作業が一段落する時に食べるのだそう。饅頭のような食感と、そら豆の風味、サルトリイバラの葉の香りが独特のおいしさです。



材料 (約20個分)

- 乾燥したそら豆 300g
※そら豆は2~3日はど天日干ししておく
そら豆は干すと茶色に変色する
- 砂糖 150g
- 塩 ひとつまみ
- 小麦粉 300g
- 湯 200cc
- サルトリイバラの葉 20枚
※手に入らない場合は、柏やハランの葉でもよい

③の皮をピンポン玉程度に丸めて小分けにし、薄く広げ真ん中に②を適量置き、餃子のように包む。この時、しっかりと閉じておかないと、蒸している途中で開いてしまつて注意。

用意した葉に④を挟み蒸し器で10分程度蒸す。

- 天日干しし、乾燥したそら豆300gをたつぷりの水に晩浸しておき、さらにひたひたの水で2時間ほど茹でて柔らかくする。
- 柔らかくなったそら豆をすり鉢でつぶし、水を加えてざるでこして皮を取り除き、さらにフキンでこしてきめ細かな粉にする。そこへ砂糖150gと塩ひとつまみを加え、焦げ付かないよう弱火で1時間程度煮詰める。
- 小麦粉300gに湯200ccを加減を見ながら少しずつ加え、耳たぶくらいの柔らかさになるようにこねる。水を使うとすぐ硬くなつてしまつて注意。10分くらいしっかりとこねると、柔らかく仕上がる。

④の皮をピンポン玉程度に丸めて小分けにし、薄く広げ真ん中に②を適量置き、餃子のように包む。この時、しっかりと閉じておかないと、蒸している途中で開いてしまつて注意。

「幸せな食べ物」の作り方を教えてくれた人



弁天サロン管理人
相川光江さん
島めぐりの拠点「弁天サロン」で観光客を温かく迎えてくれる管理人さん。相川さんの作るそら豆の餡は絶品と地元でも評判。

門倉多仁亜の
丁寧暮らし
第九話

日々の忙しさに流されて、「あなた自身の時間」の大切さを忘れていませんか？
なにげない日常を丁寧暮らしすることこそ、人生を有意義に過ごすコツ。
シンプルでありながら豊かな暮らしぶりで人気の門倉多仁亜さんと一緒に『丁寧暮らし』について考えてみませんか？



旅の
楽しみ方

旅の目的は何ですか

春、4月と言えばはじまりの季節。春風に吹かれるだけで、ウキウキしますよね。春を感じに外へ出たくなりませんか？
しかも、ゴールデンウィークも間近。そこで今回は、「旅」についてお話ししたいと思います。

ある年、夫と二人でスリランカを旅しました。偶然にも同じタイミングで日本人の知り合いもスリランカを旅したと言っているので、話をする事になったのですが、聞いて驚きました。彼女は、ガイドを雇って歴史地区をくまなく散策し、歴史や文化を学び、さまざまなかレーを食べ歩き、とにかく皆さんの情報と記憶を持ち帰っていたのです。



何もせず、ホテルでだらだらと過ごすのもドイツ流



ニューヨークで買ったにわとり型の卵入れ、タイで買ったトレー、パリで買ったアンティークのティーポット。旅のお土産は実用的な日用品

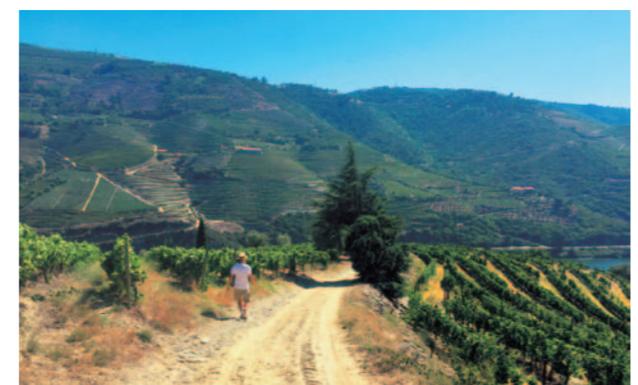
旅の経験はそれほど豊富ではありませんが、どんな国に行っても比較的、ドイツ人と日本人をよく見かけます。どちらも旅好きな民族だと言うこともかもしれません。しかし、大きく違う点があります。それは、多くの場合ドイツ人が休みに来ているのに対して、日本人は何かしに来ているということ。

何もしないからこそ
記憶に残る旅

どちらが良いということではありませんが、私はこう思うのです。
いろいろなモノを見て多くを知ることは、有意義なことだけれど、たくさん見ると、一つひとつが薄れてしまっ。

ほこりの被らない
お土産を

る見逃してしまうし、町の空気感も伝わりにくいので。歩いていけばきつと、その町の日常を感じることができ、偶然の贈り物に出会い、あなただけの濃い思い出ができるはずです。



ポルトガル旅行で、毎日のように散歩した道

私は、記憶も情報も量は少ないけれど、一つひとつが濃い。旅の間、毎日歩いた散歩道の景色を鮮明に覚えているし、そこで偶然に見かけた結婚式のこと、夫とどんな話をしたのかも濃い記憶として残っています。

そして、気に入ったものがあるればお土産にする。選ぶのは日用品。ティーポットやグラス、植木鉢などです。高価だったり繊細すぎて使えないようなもの、飾るだけのものは買いません。だから、一見するとお土産には見えないものばかり。東京でも十分手に入りそうなものもあります。

宿の近所を散歩して、通りすがりに見つけた店に入りお茶をする。また歩いて、市場やスーパーをのぞく。あとは、偶然の贈り物待つだけ。
できるだけ、車には乗らないでください。車だと、いろいろ

でも、本当に気に入って買ったものは、どこでどんな風に買ったのかしっかり記憶しているの、町の刻印がなくとも、

個性的な民芸品でなくとも、それを使う度にちゃんと旅の思い出に浸ることができるのです。
この町でしか手に入らないからと、大して気に入ってもないのに買うと、押入でほこりを被ってしまう。それでは、旅の思い出には浸れません。
名産品じゃなくても、町の名前が刻印されていなくても、気に入った日用品の方が、楽しめるというものです。



素敵なお店に出会えるのも、歩いているからこそ



門倉さんの旅の必須アイテム。バックパック、歩きやすい靴、スカーフ

Profile

門倉 多仁亜さん (かどくら たにあ)

1966年生まれ。料理研究家。日本人の父とドイツ人の母を持つ。日本、ドイツ、アメリカなど転々と移り住み、帰国後はじめた料理教室が人気に。現在は東京を基盤に月に一度、自宅のある鹿児島へ帰る暮らしを続けている。著書に「ドイツ式心地よい住まいのつくり方」(講談社)などがある。



家庭菜園

岡山県倉敷市 大嶋 喜美子さん

夕方になると家庭菜園で借りている畑に、2、3日に一度そこを通る親子連れが寄ってくれます。1歳半のあやのちゃん、私たちのことをおじさん、おばさんと呼んでくれます。

主人がジョウロで畑に水をやると、100円ジョップで買っておいたあやのちゃん用のジョウロで水をやってくれます。川の水で汚いし、濡れるのにお母さんは笑って見ておられます。

ある程度、水遊びをすますとジョウロを片付け、バイバイと帰っていきます。私たちもあやのちゃんが寄ってくれるのが楽しみです。私も子どもたちの子育ての時に優しく身守っていれば、良い子に育ったのにと反省しています。

＊家庭菜園の新しい楽しみ方ですね。



父が歩いた道

熊本県天草市 西村 元子さん

今から77年前、出征する父を近くの神社で2歳の私は見送ったと母から聞かされていたの、その後、なぜか一度も行けなかった神社。

父の75回目の命日にお墓参りの途中、鳥居の前で車を降り、神殿まで100m足らずの道を歩いた。77年前、父はどんなことを思い、どんな気持ちでこの道を歩いたのだろう。7歳、5歳、2歳、それに母のお腹にはもう一人子どもがいたのに…。

心の中では泣いていたのかもしれない。父が歩いた道を歩きながら、涙が止まりませんでした。母が大切にしていた父からの手紙には、必ず子どもたちのことを頼みますと書いてありました。その母も25年前、父の元に旅立ちました。

＊77年ぶりにお父さまの気持ちに触れた涙だったのかも。



歳を重ねて思う

茨城県神栖市 池田 みつ子さん

冬の寒さに耐えた木々は暖かい春を迎え若い芽を吹き、沈丁花の優しい香りがして、水仙の花も咲き、寒さに負けまいとしっかり根を張った雑草もあちこちに顔を出す。若い頃には感じなかったこと、見えなかったものが見えてくる。歳を重ねるとはこういうことなのだろう。

今は亡き義母の言葉を思い出す。朝、目覚めると「あー、今日も生きていられた」と思うのだと。明日が当たり前のように来ると信じていたが、60代半ばを過ぎた今、義母の言葉が実感できる。

今日の夕陽を見て、明日の朝日が見られることに感謝し、一日一日を大切に何かに感動し、生きていけたらと思う。

＊感謝と感動。ステキな生き方だと思います。



素直の大切さ

栃木県佐野市 八重樫 文さん

長男が春からピカピカの一年生になりました。緊張と楽しさが入りまじりながら、初日を元気に送りだしました。

帰宅すると、なんだか元気がありません。「お友だちのランドセルについている防犯ブザーにぼくのが引つかかって、ブザーの紐を壊してしまっただ」と言います。初日にやってしまったがあくと思いましたが、「正直に教えてくれてありがとう」と伝えました。

担任の先生から「息子さんは正直に教えてくれて、お友だちに謝りました」と電話をいただきました。ブザーの紐も直せたようで、息子の姿に「素直の大切さ」を親である私が教えられました。

＊親が思う以上に子どもの成長は早いですよね。

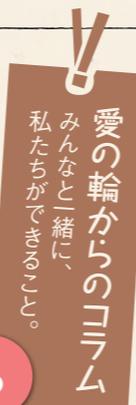
燈々無尽

お叱りを喜べ

良いと思ってる事でも、悪い事だと叱られる事もある。そんな時、叱られたからといって、それがシャクにさわって、何もかもやめてしまうのではなく、お叱りをすなおに受けて、あやまちは二度とおかさぬよう心がける事だ。むしろ、叱られた時こそ、よりよく伸びてゆく時である。

おわびは、誠心誠意をつくす事です。わびる事の出来るけんきよな人は、かならず将来のびる人でもあると、私は信じている。

鈴木清一



ミスタードーナツの小さな箱

みなさんは全国のミスタードーナツショップに置かれている、オレンジ色の小さな箱をご存知でしょうか？実はこれ、愛の輪基金の募金箱なのです。お客様からお寄せいただいた募金は、愛の輪が実施しているふたつの障がい者リーダー育成事業に生かされています。



障がいのある若者たちの自立と社会参加に向けた活動に、この「小さな箱」は欠かすことのできないとても大きな存在。みなさんの温かい気持ちをお届けください。



愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。

☎ 06-6821-5270 http://www.ainowa.jp/

アンケートにご協力ください

いつも「喜びのタネまき新聞」をご愛読いただき、ありがとうございます。さらにみなさまに親しまれる紙面づくりを行うため、アンケートを実施いたします。つきましては、官製はがきに、名前、年齢、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名を明記の上で下記の質問事項にお答えいただき、編集室宛にお送りください。ご協力くださった方の中から抽選で100名様に、ダスキンの「キッチンきれいセット」をプレゼントいたします。締切は5月31日です。なにとぞご協力のほど、よろしくお願いします。



キッチンきれいセット

Q1 現在の紙面は読みやすいですか？最もあてはまるものを1つお答えください。

- A. 大変読みやすい B. どちらかと言えば読みやすい C. 普通 D. どちらかと言えば読みにくい E. 読みにくい

Q2 Q1でD、Eとご回答された方におうかがいします。なぜそのように思われましたか？以下からあてはまるものをすべてお選びください。

- A. 文字が小さい B. 字体が読みにくい C. 文字の量が多い D. 色が薄い

Q3 「日本はひろいおいしいな」の中で、各地の郷土料理や特産品を使用した料理・お菓子をご紹介しています。このことについて、下記の中から最もあてはまるものを1つお選びください。

- A. 内容に興味を持ち、実際に自分で作ってみたことがある(予定含む) B. 作ろうと思ったことはないが、各地の郷土料理などを知ることができるので興味を持って読んでいる C. 読んではいけるが、特に興味をひくことはない D. 読んでいない

Q4 「門倉多仁亜の丁寧な暮らし」では、みなさまのよりよい暮らしに役立つ考え方やヒントとなる情報をお届けしています。このことについて、最もあてはまるものを1つお選びください。

- A. 自分のよりよい暮らしに役立っている、共感できる B. ひとつの考え方として、参考程度に読んでいる C. 読んではいけるが、特に興味をひくことはない D. 読んでいない

Q5 その他ご意見、ご要望がございましたらお聞かせください。

送先 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33 株式会社ダスキン広報部「喜びのタネまき新聞」編集室

＊プレゼントの当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。(平成28年6月下旬発送予定) ＊プレゼントの抽選結果に関するお問い合わせはお受けできませんので、予めご了承ください。

5月31日消印有効

お客様の個人情報の取り扱いについて お客様の個人情報はプレゼントの抽選及び賞品の発送に、アンケートの回答は、個人を特定しない形で統計情報として、今後の紙面制作に利用させていただきます。お預かりした個人情報は株ダスキンの範囲内でのみ利用させていただきます。個人情報に関するお問い合わせや、自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については株ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室TEL:06-6821-5007までご連絡ください。

みてもらおう!

写真、大募集

ご投稿、お待ちしております!

みんなに「みてもらおう!」

思い出の一枚、笑顔になれる一枚など
 あなたのお気に入りの一枚をお寄せください。
 また、身近な話題をお寄せいただく
 「ほほえみのひろば」も、ご投稿をお待ちしています。
 いずれも、採用された方には
 お礼をさせていただきます。

投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用の
 ダスキンの店名をお忘れなく。

送り先 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
 株式会社ダスキンの広報部 ダスキンの「喜びのタネまき新聞」編集室
 e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

変わらない
故郷の景色



庭の隅に
こっそり!



景色 植物
 人物 作品
 動物 料理

上手に
できました!



みてもらおう!

見てうれし、見せてうれし。
 あなたのお気に入りの1枚を
 送ってください。

僕も学校
行きたいな!

鹿児島県つまつ町
沖田奈々さん



ポカポカ~
眠いなま



愛知県豊橋市
今泉雄雄さん

弟と一緒に
幼稚園へ
行ってきます~す

新潟県見附市
小林里子さん

No.419からのバックナンバーが
 下記のアドレスからご覧になれます。

<http://www.duskin.co.jp/tanemaki/>



ダスキンのあなたにお届けする
便利でおトクな
使える情報サイトです。

アクセスはコチラから

dduet

<https://dduet.duskin.jp/>



この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキンの**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報の取り扱いについて】
 お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただきます。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンのコールセンターまでご連絡ください。

ダスキンのコールセンター
0120-100100 www.duskin.co.jp